

原則／早めの避難

河川の氾濫や土砂災害の危険性が高まる前に避難

積極的に情報を入手し、避難のきっかけをつかみましょう。



※避難所に入れる人数は限られます。
まずは、親戚・知人宅への避難を考えましょう。

たとえばこんなところへ・・・

- ◎親戚・知人宅など、市内に限らずより安全な場所
- ◎水害時に利用できる避難所
避難できる場所がない方は

- ・水害時利用できる避難所はマップで確認しましょう。
- ・市のホームページなどで開設状況を確認してから避難しましょう。

逃げ遅れたら／その場そのときで命を守る対応を

避難することに危険を感じたら、命を守れる場所へ

大雨や強風、夜暗いときなどに避難することは危険を伴います。
ましてや浸水の中を避難するのは大変危険です。



たとえばこんなところへ・・・

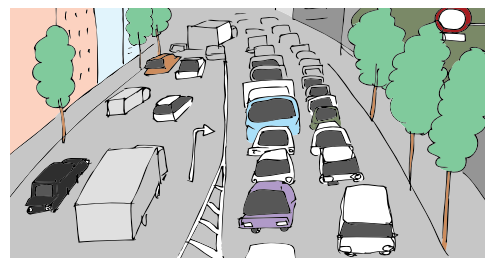
- ◎高くて丈夫な建物や高い場所
- ◎自宅の高いところ、斜面から離れた部屋
- ◎避難所に限らず、駆け込めるところ

自宅が命を守れる場所かは、
マイ・避難マップ 26～97ページ
で判定しましょう。



避難指示を聞いてからは原則歩いて避難

「警戒レベル4 避難指示」を聞いてから車で避難した場合、混雑による渋滞の発生が考えられます。
車での避難を考えている方は「警戒レベル3 高齢者等避難」などのより早い段階で避難を開始してください。



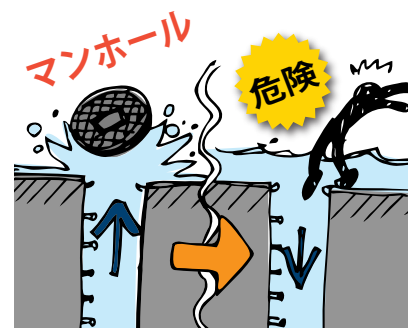
低い道路は通らない

周囲より低く水の溜まりやすい道路（アンダーパスなど）の通行には注意しましょう。
エンジンなどが停止し、車が動かなくなるおそれがあります。



浸水した道路は通らない

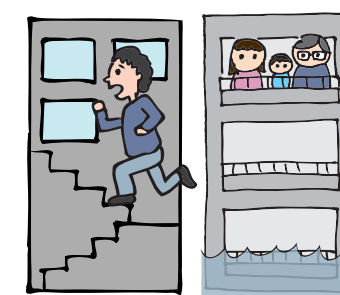
水が濁って、足元が見えにくくなります。もしフタが外れているとマンホールや排水溝などに転落して危険です。



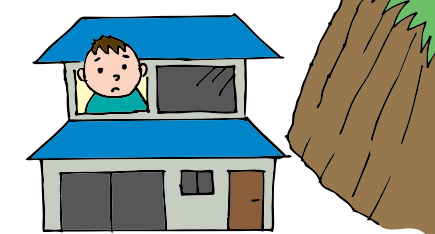
自宅の中の少しでも安全な場所に避難しましょう

同じ建物でも上層階など、浸水から安全に身を守れる場所へ避難しましょう。

浸水よりも高く



上層階で斜面から離れた部屋



自宅にとどまる場合には準備と覚悟を

浸水や孤立した場合には、水道や電気、ガスなどが使えなくなるおそれがあります。
自宅にとどまる場合には、飲料水や食料などの準備と、不便を強いられることへの覚悟が必要です。



備蓄品リストは102ページで確認

3日以上